



座談会
島村抱月研究

岡 稲

垣

保達

生郎
編

座談会 島村抱月研究

昭和五十五年七月一日 発行

定価 三八〇〇円

編者 稲垣達郎

岡保生

発行者 坂本由五郎

印刷者 梶原忠幸

東京都千代田区神田錦町三丁目十四番地

発行所 近代文化研究所

154 東京都世田谷区太子堂

昭和女子大学内

電話 四三二一五一一

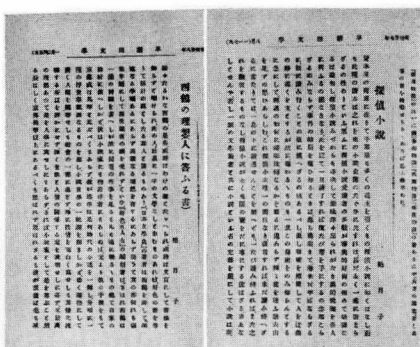
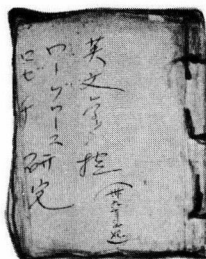
振替口座 東京四一七〇八六七



肖像（大正6年頃）

西鶴の理想・早稲田文学
(明治28年1月~2月)
(昭和女子大学蔵)

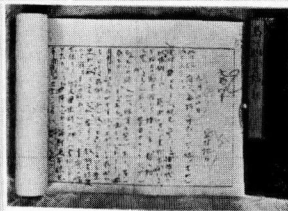
英文学史控(本間久雄氏蔵)



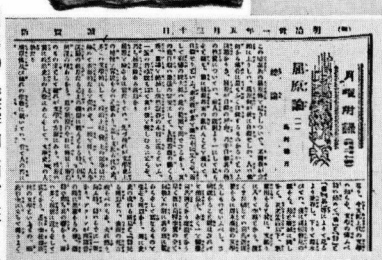
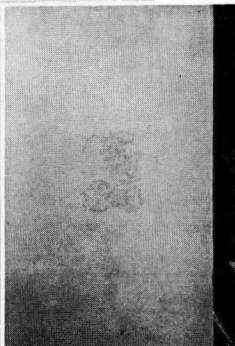
探偵小説・早稲田文学(明治27年8月)
(昭和女子大学蔵)

(昭和女子大学蔵)

抱月文稿・文芸時評
(本間久雄氏蔵)



新著月刊・創刊号(明治30年4月)(昭和女子大学蔵)

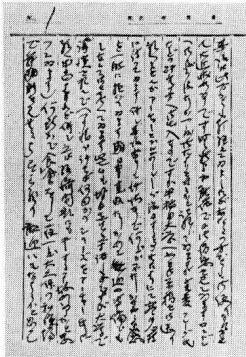
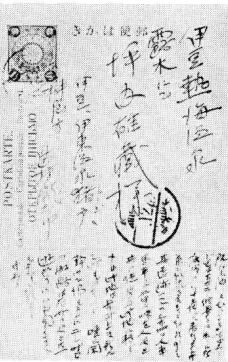


新美辞学(昭和35年3月)
(昭和女子大学蔵)

風雲集(明治33年4月)
(昭和女子大学蔵)

坪内逍遙宛絵はがき
—修善寺(右)と、伊豆伊東(左)からの二通—

(早稲田大学図書館蔵)



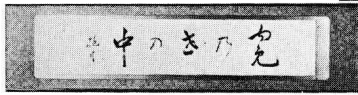
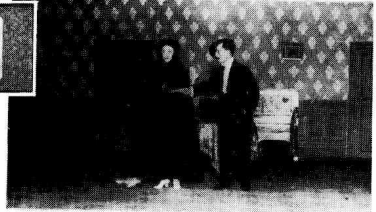
英国留学中の坪内士行氏宛書簡

(明治45年4月14日付)

文芸協会の「人形の家」

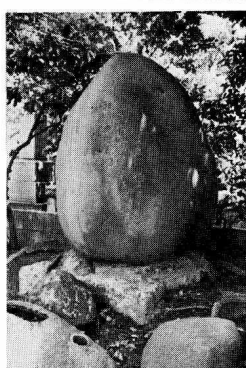
帝国劇場明治44年11月上演

(早稲田大学演劇博物館蔵)



筆跡・「夢の世の中」

(早稲田大学図書館蔵)



墓——雑司ヶ谷墓地内

「復活」・帝国劇場(大正3年3月上演)

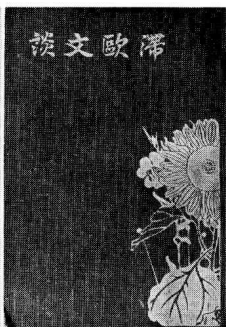
(早稲田大学演劇博物館蔵)



脚本復活(大正3年3月刊)
(昭和女子大学蔵)

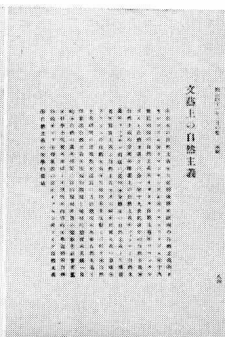
滞歐文談（明治39年7月刊）

（昭和女子大学蔵）



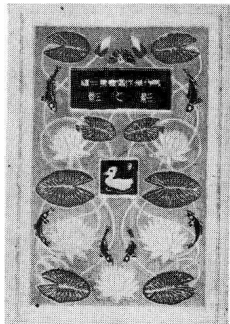
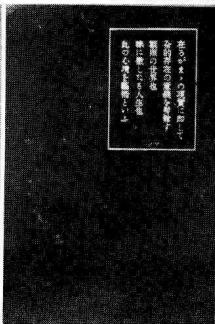
文藝上の自然主義・早稲田文学（明治41年1月）
自然主義の價值・早稲田文学（明治41年5月）
藝術と實生活の界に横たはる一線・早稲田文学（明治41年9月）

（昭和女子大学蔵）



乱雲集（明治39年11月刊）

（昭和女子大学蔵）



近代文藝之研究（明治42年6月刊）
（昭和女子大学蔵）

四はれたる文藝

文藝上の自然主義・早稲田文学（明治41年1月）
自然主義の價值・早稲田文学（明治41年5月）
藝術と實生活の界に横たはる一線・早稲田文学（明治41年9月）

地月

四はれたる文藝・早稲田文学（明治39年1月）
『破戒』を評す・早稲田文学（明治39年5月）

（昭和女子大学蔵）

懷疑と沈黙の傍より・扉（大正3年6月刊）

（昭和女子大学蔵）

懷疑と沈黙の傍より

影と影（大正2年5月刊）

（昭和女子大学蔵）

刊行のことば

座談会―坪内逍遙研究を刊行したのが昭和五十一年十月で、あれからもう三年余を経過した。この間に、座談会 島村抱月研究が十四回にわたって行なわれ、ちょうど逍遙研究と同じくらいの規模の書物となつて刊行される運びになった。島村抱月については、人見圓吉先生は坪内逍遙よりも一層深い感銘があつたと見え、抱月の話になると目の色も変り、言葉遣いはおだやかでも、熱意に燃えているさまがよく解つた。そこで何としても座談会 島村抱月をまとめて刊行しなければ後継者として申しわけがない気持でいっぱいだった。しかし幸いにも本間久雄先生をはじめ、ご縁故のある諸先生が熱心にご協力くださつて、ここに日の目を見るようになったことは喜びに堪えません。ご関係の先生方に厚くお礼申しあげます。

ただ、残念なことは木村毅、川副国基両先生がすでに他界されたことで、ここに記して心からご冥福を祈ります。

昭和五十五年五月一日

凡 例

- (一) 本書刊行に当っては、あらためて出席者諸氏に校閲を依頼し、訂正、加筆を得た。
- (二) 座談会一回を一項目として、なかに小見出しを付した。
- (三) 本文中の作品名は、新聞・雑誌掲載のもの、単行本をとわず『』を用いた。
- (四) 引用文については原文通り（旧仮名）とした。
- (五) 卷末に、「芸術座初演年表」と、「島村抱月略年譜」と、人名、作品名、新聞・雑誌名、事項の「索引」を付した。

索引

人	名 (1) ~ (6)
作品・新聞・雑誌名	(7) ~ (11)
事	項 (12) ~ (14)

凡 例

1. 人名は日本人の場合は、姓名ともに記し、外国人の場合姓のみを記した。ただしまぎらわしい場合はフルネームを記したこともある。
2. 外国の人名、作品名の表記は一般的なものを用了。
3. 作品名の再書は原則的にはぶいた。

目次

口 絵

刊行のことば

凡 例

序 論

抱月の師伝——大西操山

操山の美学

抱月の講義ぶり

ハルトマンの美学

抱月の多面性

初期の評論(一)

抱月と大観の『屈原』

抱月と榊牛

抱月の批評の型

『西鶴論』

『不言不語』の批評

新体詩論

悲劇論と藤野古白

抱月の政治観

1
2
9
14
16
18
23
24
26
29
31
33
34
35
38

対鷗外の問題……………40

『新浦島』の批評……………41

抱月の美術論……………43

教壇での抱月……………44

抱月の音楽に対する関心……………46

小 説……………49

抱月の創作時代……………50

『玉かづら』と近松の影響……………52

裁判所書記という経歴……………53

二葉亭と紅葉の影響……………54

社会小説への要望……………57

『衆生心』と『墨絵草紙』……………59

『文士無妻論』とその時代……………59

ゴールド・スマスと抱月……………61

抱月小説の弱み……………62

抱月の小説の新しさ……………63

『その女』の分析と意義……………64

初期の評論(一)……………69

「読売」時代の評論……………70

屈原論……………74

『新美辞学』の意義……………75

早稲田の文章論……………	79
『新美辞学』前後……………	79
抱月の文章……………	82
その当時の抱月……………	84
『月光美に関する諸評論』……………	86
ふたたび『屈原』その他……………	87
抱月の洋行前夜……………	92
滞欧時代……………	95
洋行の事情……………	96
観劇——『英国の劇壇』など……………	98
『レザレクシヨン』の意義……………	99
観劇記の典型……………	102
ダンテ論とその背景……………	104
宗教の問題……………	109
滞英中の旅行・写真・音楽・交友……………	111
抱月の人間性……………	115
ドイツ美学のこと……………	118
『思想問題』にふれて……………	120
日記と『滞欧文談』と……………	122
帰朝直後……………	125
帰朝当時の抱月……………	126

抱月と自然主義……………129

「東京日日」入社……………131

『如是文芸』の意味……………133

『囚はれたる文芸』の構想……………136

ダンテ研究……………138

『囚はれたる文芸』の反響……………141

当時の文壇の情勢……………143

『沙翁の墓に詣づるの記』……………145

『ルイ王家の夢の跡』……………146

トルストイとマーテルリンク……………147

日本自然主義へ……………148

自然主義の作家たち……………150

抱月と自然主義……………152

自然主義の評論(一)……………153

婦朝直後の文壇……………154

抱月の態度……………155

『「破壊」評』……………158

自然派と自然主義……………162

『「青春」評』……………164

風葉のたどった道……………166

『「其面影」評』……………168

『今の文壇と新自然主義』	169
「自然主義」とは	171
日本自然主義	173
『蒲団』評	174
『文芸上の自然主義』へ	182
『序に代へて人生観上の自然主義を論ず』	184
自然主義の評論(一)	187
『文芸上の自然主義』	188
日本における自然主義	189
観照主義的な文芸観	192
『自然主義の価値』	195
抱月の態度	198
面白いというもの	199
ゾラと荷風	200
天溪と抱月	204
能成と天弦	205
『懷疑と告白』	206
『人生観上の自然主義』	208
美学者抱月の面目	209
抱月の道	210
文学と宗教	212

『問題文芸』論……………213

抱月自然主義論の意味……………213

演劇展望……………217

演劇活動の見とおし……………218

文芸協会の抱月……………219

『人形の家』のこと……………223

女優須磨子……………226

逍遙の立場……………228

抱月の社会的活動……………231

演劇史上における抱月……………233

文芸協会と自由劇場……………234

抱月の戯曲……………237

芸術座時代の抱月……………239

『復活』と大正時代……………240

演劇活動(一)……………243

抱月と坪内士行……………244

『なすな恋』をめぐる……………248

二元の道について……………251

日本海の日本人……………255

『モンナ・ヴァナ』の演出……………257

芸術座創立前後……………260

『マグダ』の上演に関して……………	264
山本有三の抱月観……………	265
須磨子と章太郎……………	267
演劇活動(一)……………	271
『マグダ』の上演……………	272
「芸術座」二元の道……………	279
メーテルリンク劇の演出……………	282
須磨子と抱月……………	288
演劇活動(二)……………	297
『海の夫人』の特色……………	298
訳語の問題……………	300
抱月戯曲の人間像……………	302
口語体の戯曲……………	304
抱月・敏と逍遙……………	307
『復活』について……………	309
カチューシャの唄……………	311
トルストイアンが存在……………	314
目が利く人……………	315
『復活』のテキスト……………	317
上演禁止の問題……………	319
女優論について……………	321